

2. J-Debit 導入事例の紹介

KICS

きょうと情報カードシステム様

市の人口約150万人に加え、年間4200万人超の観光客を迎える観光都市・京都。その地にあつて、キャッシュレス社会の到来を先取りして事業を開始した「きょうと情報カードシステム」のデビットカードの取組みを取材しました。

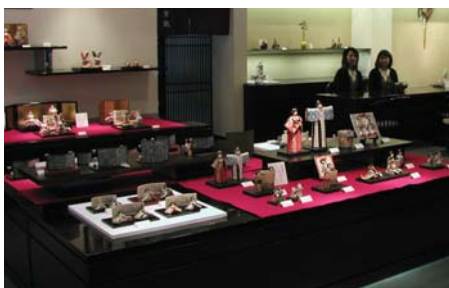
今回は、担当役員 樋爪様にお話をお伺いしました。

デビットカードの導入

四条烏丸から鴨川をはさんで八坂神社まで続く四条通りを歩くと、アーケードの下に設置されている店名ごとの看板に、ジェイデビットのロゴマークが目立ちます。きょうと情報カードシステム（KYOTO INFORMATION CARD SYSTEM以下略：KICS）は当協議会に発足時から正会員として加入し、ジェイデビットの普及に力を注ぎ、昨年売上げ実績は年間10億円、取扱件数も5万4千件を超えるまでに成長しました。躍進した理由としてはKICSにクレジットカードの一括処理のシステムが整っていたことが挙げられます。クレジットカードと比較して手数料の安いカードとして加盟店に抵抗なく受け入れられたことが、ジェイデビットのスムーズな導入につながりました。また、京都市活性化ビジョンへの組み入れにも成功し、市の支援が得られたことも大きな飛躍の要因となりました。



<店名看板のステッカー>



<老舗「たち吉」の店内>

KICSのカード事業

KICSは1992年、クレジットカードの一括処理を目的として、8商店街380店舗の規模でスタートしましたが、現在では41組合1300加盟店を擁する、中小事業者で構成する地域情報団体としては、日本最大の規模を誇っています。システムも最新技術を導入し、1997年の第2次システムの導入を経て、2002年には第3次システムを導入し、5年ごとに全面更新を行っています。KICSの事業のコンセプトを担当役員の高橋様にお伺いしたところ、「KICSでは来るべきキャッシュレス社会を見越して、ジェイデビットだけでなく、東京三菱銀行のキャッシュカードもデビットカードとして利用できます※、クレジットカード

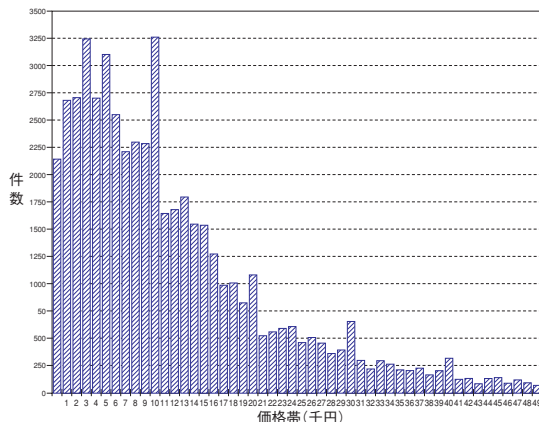
は銀行系、信販系、流通系のみならず京都にあるデパートのハウスカードも取扱っています。このようにすべてのカード決済システムを完備し、京都でのお買物に利用していただくことが、年間4000万人を超える観光客に対する、京都人のおもてなしにつながると考えています」とのお答えをいただきました。（※東京三菱銀行とは独自に契約）

売上げ単価の比較

デビットカードとクレジットカードの売上げ単価を千円きざみで表示したのが、下記の分布表です。共に3千円台にピークが集中し、件数の単位は異なっていますが、ほとんど同じようなカーブを描き、高額になるに従って件数が減少しています。KICSの年間の取扱件数を比較するとクレジットカードの約67万件に対し、デビットカードは5万4千件と、京都の商店街ではデビットカードが健闘し、よく利用されていることが明かです。また、平均単価はデビットカードの方が18,700円で、クレジットカードよりも1千6百円程度高くなっています。その他の特徴としては、数百円～2千円の単価ではデビットカードの方が利用率が高いという結果が出ています。

デビットカード売上単価分布表

1. 取扱総件数 54,087件
2. 平均単価 18,734円



クレジットカード売上単価分布表

1. 取扱総件数 666,734件
2. 平均単価 17,105円

